

医療用麻薬適正使用ガイドンス

● 目 次 ●

はじめに

本ガイドンスの使い方

1. 医療用麻薬によるがん疼痛緩和の基本方針 _____ 1
2. 医療用麻薬による慢性疼痛の治療方針 _____ 7
 - 1) 慢性疼痛の定義 _____ 7
 - 2) 痛みの特徴と治療の考え方 _____ 7
 - 3) オピオイド鎮痛薬の開始 _____ 7
 - 4) 継続投与時の留意点 _____ 8
 - 5) 慢性疼痛治療に用いるオピオイド鎮痛薬
(経口剤、貼付剤) _____ 9
3. 医療用麻薬の使用方法 _____ 13
 - 1) 非オピオイド鎮痛薬（非ステロイド性消炎鎮痛薬（NSAIDs）、アセトアミノフェン） _____ 14
 - (1) NSAIDs
 - (2) アセトアミノフェン
 - 2) オピオイド鎮痛薬の種類による使用方法 _____ 16
 - (1) コデイン
 - (2) ترامadol
 - (3) モルヒネ
 - (4) オキシコドン
 - (5) フェンタニル
 - (6) タペンタドール

(7) メサドン	
3) オピオイド鎮痛薬の投与経路（製剤）の選択と変更	32
(1) 投与経路（製剤）の選択	
(2) 投与経路（製剤）の変更	
4) 痛みのパターンと医療用麻薬の使い方	37
(1) 持続通の治療	
(2) 突出痛の治療	
5) オピオイドの鎮痛効果の判定	43
6) オピオイドスイッチング	44
7) 副作用と対策	50
(1) 悪心・嘔吐	
(2) 便秘	
(3) 眠気	
(4) 呼吸抑制	
(5) せん妄	
(6) 排尿困難、尿閉	
8) オピオイド鎮痛薬に反応しにくい痛みに対する対応	54
(1) オピオイドが反応しにくい痛みの診断	
(2) オピオイド鎮痛薬が反応しにくい痛みの種類と対処	
9) オピオイド鎮痛薬以外の治療を優先することを考慮すべき痛み	59
(1) 月経期の痛み	
(2) 化学療法に伴う痛み	
(3) 放射線療法に伴う痛み	
(4) 合併する疾患に伴う痛み	
10) 小児に対する治療	61

4. 処方・交付	67
1) 麻薬処方せん	67
(1) 交付	
(2) ファクシミリによる麻薬処方せんの取扱い	
2) 分割施用について	68
3) 在宅患者への麻薬の交付	70
4) 医療用麻薬の投与可能日数について	70
5) 注射剤の交付	72
5. 入院中における患者自身による管理	73
1) 入院患者による麻薬の自己管理	73
2) 服薬の自己管理・痛みの自己管理	73
3) 服薬を自己管理することの意義	74
4) 自己管理時の患者への指導内容（外来・入院とも）	74
6. 自宅における患者・家族による管理	79
1) 自宅における疼痛治療薬の服薬記録	80
2) 自宅での麻薬保管の留意点	81
3) 保険薬局による患者・家族の支援	82
7. 自宅以外の療養場所における麻薬の管理について	85
8. 医療用麻薬服用中の患者の海外渡航の際の手続き	87
1) 許可の申請	87
2) 許可書等の交付	92
3) 渡航先での注意点	92
9. 医療用麻薬の管理	95
1) 麻薬施用者が注意すべきこと	95
(1) 疾病の治療以外の目的での処方せん交付等の禁止	
(2) 麻薬を保管しない麻薬診療施設における留意事項	

(3) 記録	
(4) 管理	
2) 麻薬管理者が注意すべきこと	97
(1) 記録	
(2) 帳簿記載の注意事項	
(3) 保管	
(4) 届出、報告（記録、廃棄、事故）	
3) 患者への麻薬管理についての指導	102
(1) 家族・友人等への譲り渡しは法律違反	
(2) 紛失した場合の対応と「服薬記録」への記載	
(3) 医療用麻薬が不要となった場合の対応	
10. 麻薬中毒者であると疑う場合の対応	105
1) 保健所等への連絡	105
2) 医師まわりの麻薬中毒者の主な特徴	106
3) 麻薬中毒者であると診断した場合の都道府県知事への 届出	106
4) 麻薬中毒者とは	106
5) 麻薬、向精神薬、大麻、覚醒剤の違い	107
11. 用語と解説	109
付録1 病院・診療所における麻薬管理マニュアル	111
付録2 薬局における麻薬管理マニュアル	135
付録3 日本における医療用麻薬の消費量	151
付録4 災害発生時に厚生労働省が発出した医薬品等の取扱いに係 る事務連絡	155
参考書籍等	156
執筆・作成者	157